

する。

【留意事項】

- ア 書き誤った場合の訂正の仕方として、「⋮⋮」を用いる方法を指導する。「⋮⋮」を用いて訂正する場合は、言葉の一部の書き誤った箇所だけを「⋮」にすると読みにくいというえに意味が通じなくなるので、言葉全体（マスあけからマスあけまで）に「⋮⋮」を書いて訂正することを習慣づけるようにする。
- イ 点消し器を使って訂正する方法は、他の点まで消してしまうことも多いので、児童には現実的ではない。
- ウ 仮名遣いの誤りは指摘し、書いた字を確認しながら指導をする。

(8) 「しり取りをしよう」

〈ねらい〉

点字仮名の構成を理解し、様々な言葉を正しく書き表すことができる。

〈内容〉

- ア しり取りを行う。
- イ 上記アで取り上げた言葉を点字で書く。
- ウ 一定時間内に書ける言葉の数や、書き誤りの少なさを競う。
- エ 書いたものが正しく書けているか、確かめを行う。

【留意事項】

- ア 盲児の場合は、発音をしている人の口の形を視覚的に模倣することが難しいことや聴覚を通して語彙を獲得することが多いなどの理由で、発音が誤っていたり、拍数が正確でなかったりすることがある。その場合は、導入として発音を確認しながら、音を数える練習をする。
誤りやすい例：キヨツケ（号令の「気をつけ」）、シクダイ（宿題）、タイクカン（体育館）
- イ 点字を書く際に、音を口に出しながら行う。
- ウ 一定の速さで確実に書くように指導する。

第4節 分かち書きと切れ続きの学習

点字は表音文字であるために、分かち書きと切れ続きの原則に従って書き表された文でなければ意味を理解しながら速く読むことができないうえ

に、ときには誤読にもつながることになる。書きの学習の到達目標が、文字言語を主体的に操作し、自由な表現活動ができるようになることであるという点からみても、分かち書きと切れ続きの原則は、読みの学習の場合と同様に大切な内容であり、習熟のための丁寧な指導が必要である。(第6章「点字表記法の体系的学習」参照)

【題材 5 - 6】

「昨日の出来事を書こう」

〈ねらい〉

自分が直接経験したり感じたりしたことを、分かち書きを意識しながら簡単な文章で書き表すことができる。

長音・促音・拗音などの正しい表記を身に付ける。

〈内容〉

ア 昨日の出来事を思い出し、発表する。

イ 発表した内容を文章として書いてみる。

【留意事項】

ア 3マス目から書き出すことを習慣づける。

イ 分かち書きを意識づけるために、書き出す前に書きたい内容をマスあけごとに区切って実際に声に出してみるとよい。ここで文節分かち書きの意識を養うようにする。

ウ 数字、アルファベットなどを用いる場合は、表記の仕方をその都度説明し、正しい表記の定着を図る。

エ 正確に間違いなく書くことはねらいではあるが、自分の経験したことを楽しみながら書くなかで、点字が書ける喜びを感じることを大切にす。

第5節 文の構成と表記符号の学習

墨字では、文章表現の内容を豊かにするために、句読法をはじめ、様々な体系の記号や符号類が用いられている。これらの多くは視覚的要素を含むため、点字化の際には、触読の特性を考慮したうえで、墨字との対応を図ることが必要となる。このため、点字で表記符号を用いる場合には、目的と必要に応じた使い分けが必要である。